

新学術創成研究科 融合科学共同専攻
【授与する学位】修士（融合科学）

<p style="text-align: center;">大学（大学院）の目的</p> <p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">学類（研究科）の教育研究上の目的</p> <p>新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問・産業の分野・領域の創成につながる異分野融合的な研究による成果や社会との往還を基盤に大学院教育を展開することで新たな学術の創成に寄与し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を養成することを目的とする。博士前期課程融合科学共同専攻は、グローバル社会のニーズや動向を察知し、様々な科学的知見と先端科学技術を基に、科学技術イノベーションに協奏的・共創的に貢献できる人材を養成する。</p>
---	--

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</p> <p>「グローバル社会のニーズや動向を察知し、様々な科学的知見と先端科学技術を基に、科学技術イノベーションに協奏的・共創的に貢献できる人材」を育成することを教育目標とする。</p> <p>“科学を融合する方法論”を探求・実践した上で、「学修成果」として下記に掲げる5つの資質・能力（コンピテンス）を修得するとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、修士論文の審査及び最終試験、若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した学生、又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に「修士（融合科学）」の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成に関する基本的考え方】</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を修得するため、“課題解決志向型”の教育内容・手法を重視し、学生が教育プログラムの履修を通して身に付けるべき要素を踏まえた体系的なカリキュラム（教育課程）を編成する。</p>	<p>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</p> <p>学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、専門が異なる分野にも関心をもって他者との協奏的活動に取り組み、複雑で困難な問題を分野融合の力で解決し、社会の発展のための新しい価値を積極的に創造しようとする強い意欲をもつ者を受け入れる。</p>
<p>【学生が身に付けるべき資質・能力】</p> <p>(1) 科学技術イノベーションに関連する社会課題の解決に貢献できる能力 (2) 自分の専門分野に関する知識と実践力 (3) 他分野に対して積極的に関与する意欲と能力 (4) 外国語の学術論文を読みこなし、自分の研究を外国語で簡単に説明できる能力 (5) 科学・技術・生命に対する研究者倫理観</p>	<p>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</p> <p>「グローバル社会のニーズや動向を察知し、様々な科学的知見と先端科学技術を基に、科学技術イノベーションに協奏的・共創的に貢献できる人材」を養成すべく、既存の科学分野を超える枠組みの下で、科学を融合する方法論を探求・実践しながら社会におけるニーズや動向を察知し、科学技術イノベーションに関連する社会課題の解決に資する基礎能力を修得させるため、以下の講義及び研究室教育による学修を行う。</p> <p><講義による学修> 以下の科目群を体系的に構成・開講する。 (1) イノベーションの創出に関する基盤的知識や態度を涵養する専攻共通の基幹教育科目 (2) 分野融合セミナー・グループワークや異なる分野における研究などの異分野融合を主とした異分野「超」体験科目 (3) 社会のニーズを踏まえた実践的教育を行うための社会実装科目 (4) 自分の専門分野に関する基礎的な知見を修得・活用させるための体系的な専門科目</p> <p><研究室教育による学修> 以下の方針の下、研究支援科目を開講する。 (1) 他分野との積極的な交流を促すため、主任研究指導教員1名（本籍大学の教員）及び副主任研究指導教員1名（相手大学の教員）の2名からなる指導体制とする。 (2) “科学を融合する方法論”を自ら探求・実践し、異なる知見や観点から新たなアイデアを創出させ、自身の専門分野に関する基礎的な知見を修得・活用し、自身が設定した研究課題を進展させるために必要な能力を修得させる。 (3) 専門分野に関する高度な知識と実践力はもとより、研究者としての倫理観、国際的発信力を意識した教育を行う。</p> <p>上記の学修成果を踏まえて、特定の研究課題に関する学位論文等の作成について指導を行う。</p>	<p>【求める人材】</p> <p>学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識のほか、専門が異なる分野にも関心をもって他者との協奏的活動に取り組み、複雑で困難な問題を分野融合の力で解決し、社会の発展のための新しい価値を積極的に創造しようとする強い意欲をもつ者を受け入れる。</p>
	<p>【学修成果の評価】</p> <p>(1) 講義による学修及び研究室教育による学修では、明示された成績評価基準に基づいて、成績評価を行う。 (2) 提出された学位論文等は、明示された学位論文評価基準に基づいて評価を行う。</p>	<p>【選抜の基本方針】</p> <p>入学者選抜試験は構成大学ごとに行うものとし、上記の求める学生像を踏まえて、本専攻入学後に取り組みたい分野融合を含む研究課題などの口頭発表等により、学士課程等で修得してきた分野の基盤的専門知識に加え、分野融合による新しい価値を創造しようとする意欲を評価して選抜する。</p>
		<p>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p>